



第149号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

携帯 090-1568-4623

〈E-mail〉

matsuoka@kosanji.or.jp

我執

煩惱障眼雖不見 大悲無倦常照我

煩惱に眼障へて見たてまつらずといえども、大悲、
倦きことなくしてつねにわれを照らしたまへ

【現代語訳】

私の煩惱（欲望）が原因で阿弥陀様の光明が見えない。しかし阿弥陀様の慈悲は私をいつも照らしていた
だいている。

よく仏教を信じていることができないとことを聞くが、



信じていることができないのは自分の中に煩惱があるからである。煩惱の中身は我執である。どこまでも自分自身に執着するから仏さんからの光が届いているのに見えないのである。届いているにもかかわらず見えな
いから信じていることができないのである。さらに言えば、
我執こそ苦悩の原因でもある。

備 患

積 綽智

昨今、「自粛」という言葉を聞かない日はありません。天災は忘れたところにやってくるといわれるが今は忘れる前にやってくる。特に六月から七月の梅雨末期に大雨を持ってきて各地に未曾有の被害をもたらせている。今回も九州熊本や福岡、佐賀、長崎を襲い百人以上におよぶ尊い生命を奪ってしまった。

わずか二・三日で500ミリ（地上50センチ）も降れば雨水は地下へ浸透する前に地表を低い方向へ自然に流れる。日本三大急流と称されている球磨川は途中に人吉盆地へ経て北上して西の八代湾にそそいでいる。平生は静かな流れにちよろちよると細い本流が人吉市でみられたが今回の大雨ではそれが豹変したので流域で多くの犠牲者が出てしまった。百年に一度と地元の人が言っておられたが土砂降りが続いてすぐに川が氾濫し、一階から二階に避難すると水位が二階まで

きて、さらにきたので泳いで屋根に登り救助されたという水位の速さの恐怖におののかれていたテレビをみて驚くとともに助かってよかったと思いました。

今から八百年ほど前に京都では冷害と大風水害があつて都の人口の三分の一が亡くなつたと記録されている。人吉市と共通するのは盆地という地形であるから一時に大雨が降れば盆地にたまる。水かさがあつという間に人間の背丈に達するから溺れる人が多くなつたのだと思う。

親鸞聖人は九歳の時に父母をあいついで失くされています。そして多くの兄弟をどう生活させるかの心配があつたのでしょう。父は下流貴族だったから収入がなくなれば飢え死にしかない。こんな時に縁者から紹介されて青蓮院で得度されたが、その道すがら道端や鴨川には死体がごろごろあり悪臭がただよう中を山科から通われた。きつとこの時にわずか九歳だったが自分の行く末（後世）はどうなるのか案ぜられたに違いない。



私の九歳は小学校三年生で太平洋戦争が終わった年でした。大きな地震が二度あって四八の大きな家が二度も傾いたので人夫が来てジャッキを十個ほど使ってきちんと元どおりにしてもらったおぼえがある。伊勢湾台風時には風と雨で家が地震のようにゆれて怖かったのと必死になって六枚もある雨戸をおさえていた。台風が過ぎ雨戸を開けたらとても明るいではないか。前の家の北側にあった数本の杉の大木が全部折れて倒

れていた。それからのことはまたの機会にして。

そして新型コロナよ、これ以上人間をいじめないでください。君のために同朋会も休みが続いている。しかし三密を避けてマスクにうがいを励行してそろそろ例会をやりたいと一度皆さんと相談いたします。それまではお家でお勤めをしっかりとやりましょう。

不安な気持ち

今、多くの人はコロナにかかるかもしれないという不安を抱えている。

しかし例えば車を運転すれば事故を起こし人を殺してしまう可能性もゼロとはいえない。

歩いている時でもそこに車が突っ込んできて死ぬことだって可能性としてはゼロではない。交通事故死亡者は全国で毎年四千人ほど出ている。

南海トラフの地震はいつ起こってもおかしくないと



言われている。もしひとたび起これば何十万人の命が失われるという。車で事故を起こすかもしれない、車にひかれるかもしれない、という、ことを考えて日々、不安で仕方がないという人をあまり聞いたことがない。

同じように南海ト

ラフが怖くて不安で不安で仕方がないという人もあまり見たこともない。

私たちは「コロナにかかるかもしれない」という不安に苦しめられている。

もちろんコロナに感染する危険性はよく理解しないといけない。あと一年は今の状況が続くであろう。コ

ロナにかかるかもしれないという不安に頭の中を占領されて一年間、毎日を過ごすというのも何とも輝かない生活である。

コロナだったり交通事故、大災害でいつ死ぬかわからない身であることはわかりながらも一日一日を大切に生きていこうとはなかなかないのである。おそらくそこには「とりあえずはまだ私は死なないだろう」という傲慢さがあるのだと思う。

コロナがその傲慢な気持ちをやさぶるから不安な気持ちでいっぱいになるのであろう。

行事予定

コロナ感染症防止のため行事を縮小または中止をしております。

お盆の期間は本堂の扉をすべて開放し風通しをよくしております。ぜひともお盆には廣讚寺本堂にお参りください。